

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 霧丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

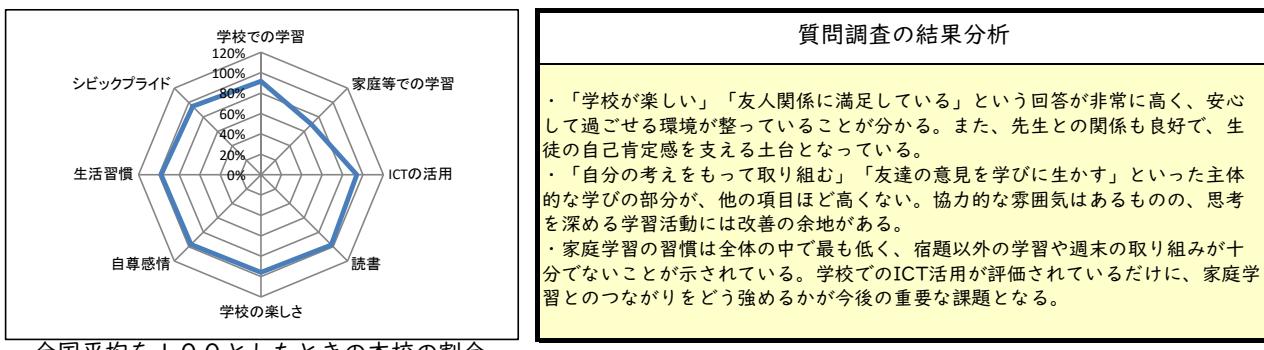
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域で全国平均を下回っており、国語に対しての理解力不足を感じる結果となっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える問題はよくできている。	
	努力が必要な問題	・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫し、自分の考えを書く問題を苦手としている。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域で全国平均正答率を大きく下回っており、数学に対しての苦手意識を強く感じる結果となっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例を上げる問題は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	・多角形の外角の大きさを求める問題において、全国平均を大きく下回っている。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っている結果となってはいるが、ほぼ全ての領域において、全国平均と大きく変わらない結果となっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・塩素の元素記号を記述する問題において、全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	・スケッチから分かることを問われる問題で、スケッチに関する知識及び技能が全国平均を下回っている。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語：文章の要点整理と短い理由づけの記述を習慣化し、読み取りと表現の力を高めていきたい。
- 数学：口頭説明や基本問題の反復を通して、考え方を説明する力と图形理解を強化していきたい。
- 理科：観察結果の言語化と用語確認を繰り返し行い、実験の理解と基礎知識の定着を図りたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 定期的に小中連絡会を行い、学力向上の取組などを情報共有することで、9年間を見通した取り組みを行っている。
- 生活習慣アンケートを実施し、生徒の実態を把握した上で、家庭生活習慣の重要性や改善例を学級通信などで発信し、家庭での取り組みをサポートする。
- スマホ22時電源OFF運動を生徒会とタイアップして全校生徒に推進する。